



営農NEWS



アブラナ科野菜でのハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイムシ）被害発生を防ぎましょう

ダイコンやキャベツ、ハクサイ、ブロッコリーなどアブラナ科野菜の幼苗期（育苗期間中や本圃の生育初期）に、作物の芯が止まって生育不良や奇形となり、著しい品質の低下や商品価値を失う症状が発生することがあります。

この原因の多くは、チョウ目害虫のハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイムシ）の幼虫による被害で、産卵され、ふ化した幼虫が幼苗の生長点付近に寄生し、展開し始めた新葉をつづり合わせて食害するため、多発生すると非常に大きな被害になります。

ハイマダラノメイガの発生量は、年次により変動しますが、本来、暖地系の害虫であるため、高温少雨の年には多発生する傾向があり、注意が必要になります。

本年は、梅雨明けが平年より 2 日早く、その後は高温少雨の日が続いており、長期予報（8 月 13 日発表）によりますと、向こう 1 か月は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多く、平均気温の高い確率が 60% と予想されて、ハイマダラノメイガの発生を助長する条件と推察されます。

このため、8～9 月にかけて播種や定植を行うアブラナ科野菜では、事前の対策を十分たてておく必要があります。

<防除対策のポイント>

- 1 成虫は 7～10mm 位なので、育苗を行う場所は防虫ネットなどで被覆し、成虫の侵入や産卵を防ぎましょう。
- 2 本圃での被害発生を未然に防ぐためには、育苗期後半または定植時に、粒剤あるいはセル成型育苗トレイ等に高濃度で灌注できる液剤を処理すると有効です。
- 3 本圃での被害発生は早期発見に努め、確認されたら直ちに薬剤防除を行いましょう。なお、散布のときは、薬液が株の中心部や葉裏にもたつぷりかるよう十分量で丁寧に行ってください。

表 1 アブラナ科野菜におけるハイマダラノメイガの主な防除薬剤（平成 27 年 8 月 14 日現在）

薬剤名 (主な系統名)	対 象 作 物					
	ダイコン	キャベツ	ハクサイ	ブロッコリー	カリフラワー	カブ
プレバソフロアブル 5 (ジアミド系)	○	○1 と ○	○1 と ○	○		
プレバソン粒剤 (ジアミド系)		○2	○2	○2		
ジュリポフロアブル (ジアミドと材の混合剤)		○1	○1 と ○	○1		
フェニックス顆粒水和剤 (ジアミド系)	○	○		○	○	○
ディアナ SC (スピノシン系)	○	○	○	○		
アニキ乳剤 (マクロライド系)	○	○	○			
アクセルフロアブル (その他)	○	○	○			
プレオフロアブル (その他)		○				
コテツフロアブル (その他)		○				
ハチハチ乳剤 (その他)	○	○	○			○
ダントツ粒剤 (ネオニコチノイド系)		○2	○2	○2		
モスピラン粒剤 (ネオニコチノイド系)		○2	○2	○2		
エルサン乳剤 (有機リン)	○	○	○	○	○	○

注 1) 各薬剤の処理方法等については、必ずラベルで確認し、適正に使用してください。

2) 欄中の○1 は育苗セルトレイ等への灌注処理、○2 は移植時等の株元または植穴への粒剤処理、○は生育期における液剤の散布処理です。同一薬剤名では、どちらかの剤型を使用してください（総使用回数に注意してください。）

3) 同一系統の薬剤は、抵抗性の出現を抑制するため、連用を避け、ローテーション使用してください。

4) ジアミド系剤（プレバソン、フェニックスなど）では、コナガに対して防除効果の低下している圃場が確認されています。ジアミド系薬剤は、ハスモンヨトウやオオタバコガ等のチョウ目害虫には不可欠であるため、コナガが発生して問題になるときは、ジアミド系以外の有効薬剤と組合わせてローテーションで対応してください。

農業使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040